

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
1 熊野市	対談項目1 働く場の創出を目的とする産業の振興について	1 「東紀州体験フェスタ」のような催しの開催について	<p>東紀州の魅力が強力に発信し、地域の交流を高めるため三重県が中心となり、市町とともに熊野古道を核として14年前に開催された「東紀州体験フェスタ」のような催しの開催を行うことを是非お願いしたい。</p> <p>高速の開通、式年遷宮、熊野古道世界遺産登録10周年という大きなチャンスが到来している。和歌山県、奈良県に負けないように大キャンペーンを打つには、県が音頭を取って「東紀州体験フェスタ」のような催しの開催を進めていただきたい。</p> <p>半年間、東紀州に来たら、どこかで何かをやっているという状況をつくり出すことが大切である。</p>	<p>10周年の記念事業は、来年の7月から12月までの半年間、やっていこうと進めている。</p> <p>10周年の機会に、集客の拡大を図るイベントを県も当事者意識を持ってやるということと、その後も残っていく中身にしていくということが「東紀州体験フェスタ」のような催しのエッセンスだと思うので、そういうことを意識して、これから共に検討を進めさせていただきたい。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
2 熊野市	対談項目1 働く場の創出を目的とする産業の振興について	2 熊野古道シャトルバスについて	<p>現在、名古屋～熊野間を運行している熊野古道シャトルバスについて、増便をしていただきたい。伊勢・関西方面からの新規運行についても検討いただきたい。</p> <p>伊勢志摩と東紀州の連携を、南部地域活性化局をつくっていただいたということもありますし、もう少し広い意味で伊勢志摩と連携策が考えられないか。例えば新しい高速道路を走るバスも必要だが、260号線を観光道路化するようなことも、ご一考いただければありがたい。</p>	<p>シャトルバスの増便は、2市1町とよく相談させていただきたい。</p> <p>伊勢便は、16年、17年にやったことの検証を踏まえて考える必要があると思っている。</p> <p>南部地域活性化局を、伊勢から南でつくったという意義もあるので、よく連携、検討していきたい。</p>
3 熊野市	対談項目1 働く場の創出を目的とする産業の振興について	3 香酸柑橘「新姫」の三重ブランド認定について	<p>「新姫」は熊野市の特産品と位置づけて、いろいろな振興策を講じているが、26年11月に熊野市が保有する育成者権が切れる。それまでに「新姫」は、熊野市のオリジナルの特産品であることを更に周知させていきたい。「熊野地鶏」と同様に三重ブランドとして認定されるようご配慮をお願いしたい。</p>	<p>三重ブランド認定に向けての戦略的ブランド育成事業を申請中であるので、市場性とかの要件をクリアすべく取り組んでいただくことをサポートしていきたいと思っている。</p> <p>9月に首都圏の営業拠点ができるが、「新姫」を活用したものを定番メニューに入れたいという意向を運営事業者が言っていたので、市場性や消費者の反応をフィードバックして、うまくスパイラルになるようにしていければと思う。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
4 熊野市	対談項目1 働く場の創出を目的とする産業の振興について	4 企業誘致への協力について	<p>企業誘致について、これまで以上に取り組んでいきたい。情報提供や助言をいただければ市として自ら取り組まなければいけないと思っている。</p> <p>南部地域活性化基金を使って、6市町で企業立地セミナーをやっているということなので、我々も是非いっしょにやらせていただきたい。</p> <p>営業力が弱いと感じています。熊野市単独で無理なら東紀州で名古屋や大阪に営業拠点を作っていることを考えている。岡山県美作市は、大阪府北部のUR（都市再生機構）が開発した団地内にアンテナショップがあり、1日に3回も商品を運んでいる事例もあります。情報提供でもよいのでご支援を頂ければと思う。</p>	<p>「地域資源活用型産業等立地促進補助金」は、従来の雇用要件を10人以上から5人以上（県内に事業所のある企業は3名以上）に見直した。</p> <p>また、「サービス産業立地補助金」をつくったので、サービス産業でも、企業とのやりとりをしながら情報提供をさせてもらう。</p> <p>南部地域活性化基金を使って、伊勢志摩地域の6市町は、企業立地セミナーを大阪でやってもらったりしているので、熊野市におかれても、そういう取組をやられるということならサポートさせていただく。</p> <p>美作の事例はなかなか面白い発想だと思う。我々も一緒に研究させていただければと思う。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
5 熊野市	対談項目1 働く場の創出を目的とする産業の振興について	5 雇用創出事業の継続・拡充について	<p>県として南部基金を活用した『地域資源を活用した雇用創出事業』を実施いただいておりますが大変ありがたく思っている。</p> <p>今後は単に雇用の場を提供するだけでなく、常雇用を目的に事業者と就職希望者のマッチングを図るため、働く場の提供とともに研修受講を義務とし、常雇用につながるよう事業者が求める技術や資格などの習得が出来る取組を検討していますので、県の支援もお願いします。</p> <p>津で67%が就業したという話も聞きましたし、この辺は教えていただきながら、商工会議所と来年どういうことができるのか、いっしょに検討しているので、いろいろと支援していただければありがたい。</p>	<p>国に「起業支援型地域雇用創造事業」を申請していて、全国で5つぐらいの県しか当たらないが、8月中ぐらいに採択が決まる。雇用について、しっかりやっていきたいと思うが、国の採択状況を見たいうえで、相談させていただきたい。</p> <p>常雇用が重要だということにおいては、津高等技術学校では人材育成をやっており訓練コースを受けた67%が就業いただいているので、常雇用につながるスキルアップで連携できればと思っている。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
6 熊野市	対談項目2 万全な防災対策について	1)南海トラフ巨大地震対策の最終報告への対応について ①住宅の耐震改修について	<p>市民の皆さんに、津波から避難する前に、そもそも自宅が壊れないようにすることを考えないといけないと言っている。</p> <p>また、耐震工事は費用が非常にかかる。国・県の補助の対象は建物全体を耐震化しないとイケないこととなっている。寝室と廊下だけの部分耐震を行うことによって耐震化が進む。最低限の簡易で安価な部分耐震改修を県として考えていただきたいし、国へも補助の対象とするよう働きかけていただきたい。</p>	<p>市長には建設的な意見をいつもいただいている、昨年度いただいた簡易な工法については対象拡大をさせていただいた。</p> <p>今日もおっしゃっていただいた寝室や廊下の部分改修についても、どういふものがあるか、国がどのように考えているのかも含めて、動向の注視と研究をしてみたい。</p> <p>南海トラフ特措法も、津波に対する財政支援は豊かになりそうだが、揺れに対する財政措置は弱いので、法律で対処しないのであれば、地域の実情に合わせたバリエーションのある予算事業を組んでもらわないとイケないので、引き続き国への働きかけを強めていきたいと思う。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
7 熊野市	対談項目2 万全な防災対策について	1)南海トラフ巨大地震対策の最終報告への対応について ②高規格幹線道路について	<p>国への働きかけについて、毎年、知事には本当に頑張ってもらっていて感謝を申し上げる。引き続き、よろしく願いしたい。</p> <p>来年が勝負の年だと思っている。これまで南海トラフの関係で優遇されていたのが、全国から手が上がってくると、来年度、新規着工として認められないと時間がかかってしまう可能性もあるので、引き続きお力をいただきたい。</p>	<p>7月9日に財務省の新しい次官に表敬訪問した際、ミッシングリンクの解消を言わせていただいたところである。</p> <p>平成26年度には新規事業化に何とか道筋をつけたいと強く思っているので、しっかり頑張りたい。</p> <p>全く同感で、来年度に新規事業化を持ってこれるかどうか勝負だと思っているので、しっかり頑張っていきたいと思う。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
8 熊野市	対談項目2 万全な防災対策について	1)南海トラフ巨大地震対策の最終報告への対応について ③避難者への対応について	<p>避難所に入る避難者のトリアージ、住宅の被災が少ない方々の在宅避難への誘導、避難所運営について、ほとんど全ての市町で検討を進めていると思います。どこでもやらなければならないことですので、県が先頭を切ってご検討いただければありがたい。</p> <p>トリアージが難しいのは分っているが、ルールを示してみなさんに周知すると、100%ではないにしても、理解をしてくれる人が増えてくる。今は全く何もないという状況なので、避難所トリアージの考え方とかルールをあらかじめ作っておかないと、より大きな混乱に結びつくのではないかと思うので、是非ご検討をお願いしたい。我々としても、検討の場があれば、市町の立場でいろいろな発言をさせていただきたいと思っている。</p>	<p>避難所における避難者トリアージの導入指針は、国の南海トラフの報告の中で突然出てきて、論理的には良く分るが、実際に避難所運営をやっていただくとなると、誰がトリアージの権限を持って、どうやってやるのか、悩んでいるところなので、国とも議論させてもらいながら、計画づくりやマニュアルづくりを進めていきたいと思う。</p> <p>昨年度、避難所運営マニュアルをご議論させていただいて、作らせていただいたので、それを一つのベースとしながら、指揮命令系統と責任者等のルールを足していくのではないかと考えている。</p> <p>いずれにしても、どういう形でやれば良いのか、国がどういうイメージを持っているのかも含めて、研究していきたい。</p> <p>また、そういう検討の場においては、ご協力をお願いしたい。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
9 熊野市	対談項目2 万全な防災対策について	1)南海トラフ巨大地震対策の最終報告への対応について ④地域減災力強化推進補助金について	津波避難タワーの整備に対する支援を含め更なる充実をお願いしたい。	<p>地域減災力強化推進補助金は、市町の整備の状況に合わせて、内容を進化させていくことが重要だと思っているので、津波避難タワーについても、具体的にご相談いただければ、考えていきたいと思う。</p> <p>南海トラフ特措法が通れば、津波避難タワーの建設については、補助率3分の2の国庫補助制度も検討されている状況なので、南海トラフ特措法の早期成立を施行も併せて、しっかり提言していかなければいけないと思っている。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
10 熊野市	対談項目2 万全な防災対策について	2)河川観測水位計・量水表・監視カメラの増設・新設について	<p>一昨年の台風を踏まえて、大又川、産田川、井戸川の水位計の設置、板屋川、湊川、里川の量水標の設置、志原川の河口部のカメラ設置について、可能なものから設置を急いでいただきたい。</p> <p>また、熊野川の小船地区、楊枝地区、和気地区の量水標の設置についてもご検討いただきたい。</p>	<p>水位観測所の設置は、平成25年度内に大又川の熊野市飛鳥町小阪に設置し、平成26年度内に産田川へ設置を予定している。また、井戸川については災害復旧助成事業の完了後に設置を予定している。</p> <p>量水標の設置は、水防活動を支援していくため、昨年度要望された板屋川、湊川、里川に加え、新たに要望を頂いている熊野川の小船地区、楊枝地区、和気地区においても25年度に設置する予定である。</p> <p>監視カメラの設置は、志原川の河口閉塞状況の確認を目的に、今年度、カメラの仕様や通信方法などの検討をするための実証実験を進めている。なお、年内に機器仕様・構成を確定し平成26年度に本設置する予定である。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
11 熊野市	対談項目2 万全な防災対策について	3)大型台風接近時における三重県職員 の支援(連絡要員の派遣)について	大型台風等が接近するときに、活性化局の職員に、熊野市の防災対策本部に来ていただいている。情報のやりとりが蜜に、円滑にできるので、引き続き職員の派遣をお願いしたい。	平成24年度の台風4号及び台風17号接近の際には、職員を派遣し情報収集を行った。 今後も、大型台風の接近など甚大な災害の発生が予想される場合には、迅速に対応できるようにしていきたいと思っている。

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
12 熊野市	対談項目2 万全な防災対策について	4)防災施設・基盤の整備について ①有馬町の無堤防区間の早期解消について	有馬町の無堤防区間の早期解消については、残る370m区間についても2～3年をめどに順次整備を進めていきたいと思う。
13 熊野市	対談項目2 万全な防災対策について	4)防災施設・基盤の整備について ②河川整備について 1.産田川改修について	産田川の改修については、水系全体として「志原川水系河川整備計画」を国土交通省との協議を進め、平成25年度末の策定を目指している。 したがいまして、産田川の整備手順については「志原川水系河川整備計画」の中で検討していきたいと考えている。
14 熊野市	対談項目2 万全な防災対策について	4)防災施設・基盤の整備について ②河川整備について 2.大又川をはじめ市内河川の河床掘削について	紀伊半島大水害により河川等に堆積した土砂の撤去については、平成24年度までに、約11万m <sup>3</sup> の堆積土砂を撤去した。平成25年度は、大又川他3河川において約6万m <sup>3</sup> の堆積土砂を撤去する予定である。残る約3万m <sup>3</sup> の堆積土砂の撤去についても、緊急度の高い箇所より計画的に進めていきたいと考えている。

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
15 熊野市	対談項目2 万全な防災対策について	4) 防災施設・基盤の整備について ③公共工事の残土を利用した堤防築堤について	<p>有馬町に堤防があるが、伊勢湾台風でできた高潮対策の堤防なので、大きな津波が来たら倒れてしまう可能性がある。</p> <p>高速道路の工事で残土がある場合、堤防の後ろにその残土を積み上げて、堤防を守り、命を守るという取組に結びつけられないか検討いただきたい。</p>	<p>新宮市の大浜海岸で、堤防背面に残土をつける工事があると聞いている。</p> <p>国の熊野川河道掘削事業で掘削した土砂を有効利用しようということで、七里御浜への流用調整を進めているところであるが、他の七里御浜海岸への流用についても七里御浜海岸侵食対策連絡協議会と調整を図りながら、どういう流用の可能性があるかの検討をいっしょに考えていきたいと思っている。</p>
16 熊野市	対談項目2 万全な防災対策について	5) 紀伊半島大水害による流木処理について	<p>災害事業の対象とならない山林内にはいまだ多くの流木が手付かずのまま放置されている。</p> <p>これらは大雨等により一気に流出する可能性があります。</p> <p>そこで、平成26年度より導入されます「みえ森と緑の県民税」の特別枠の事業としまして、対処していただくようお願いしたい。</p>	<p>みえ森と緑の県民税で、県事業として、流木となる恐れのある溪流沿いの樹木の伐採・搬出と広葉樹林化、治山ダム等の施設に堆積した土砂や流木の除去に取り組んでいこうを考えている。</p> <p>これらの取組については平成26年度からのスタートとなるが、今年度に事前調査等の準備をしていきたいと考えている。</p> <p>熊野市内では、26年度において事業を実施する方向で調整を進めているところであるので、地元調整も必要になってくるので、ご協力いただければと思う。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
17 熊野市	対談項目2 万全な防災対策について	6)大規模な屋内運動施設(総合体育館)建設への支援について	スポーツ集客をするについても、避難所としての機能を持つためにも、大規模な屋内運動施設について、支援を検討いただきたい。	国体に向けて、市町で整備していただくスポーツ施設の支援制度を設計中である。概ね国大開催5年前に発表されることが多いが、十分に認識しているので具体的に、ご相談いただければと思う。